

ウイルスフリーブドウ「巨峰」の生育特性および適正結果量					
[要約] <u>ウイルスフリーブドウ「巨峰」</u> は新梢伸長が旺盛で、特に結果母枝先端からの新梢伸長が非常に旺盛である。ウイルスフリー「巨峰」の適正な結果量の目安は新梢長150cmあたり1果房である。					
担当部署	園芸研究所・果樹部・果樹品種研究室			連絡先	092-922-4946
対象作目	果 樹	専門項目	栽 培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

ブドウはウイルスに感染すると味無し果や着色不良果が発生することが知られており、その対策として、本県の主要品種「巨峰」はウイルスフリー樹への更新が進められている。しかし、ウイルスフリー樹の新梢伸長特性や高品質果実の生産のための適正結果量などについては不明な点が多い。そこで、ウイルスフリー「巨峰」の生育特性と適正結果量を明らかにする。(要望機関名：生産流通課、浮羽普(H4))

[成果の内容・特徴]

1. ウイルスフリー「巨峰」(5年生樹)は対照樹(リーフロールウイルスに感染)に比べると新梢長が長く、特に無摘心では5m以上に伸びるような非常に強い新梢の割合が高い(図1)。また、結果母枝先端の新梢は伸長が非常に旺盛である(図2)。
2. ウイルスフリー「巨峰」では結果量が果粒重、糖度および酸含量に及ぼす影響は小さいが、果皮色に及ぼす影響は大きい(表1)。また、新梢100cmあたり1果房(350g)を結実させると早期落葉が激しい(データ略)。1果房当たり150cmの新梢長(本葉約18枚)で品質良好な果実が安定生産できる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. ウイルスフリーブドウ「巨峰」の新梢管理や結実管理の資料として活用できる。
2. 新梢150cmあたり1果房を結実させた場合の10aあたり着果数は約4,300房である。
3. 新梢の発芽を促し、揃えるために、芽傷や発芽促進剤の処理等を行う。

[具体的データ]

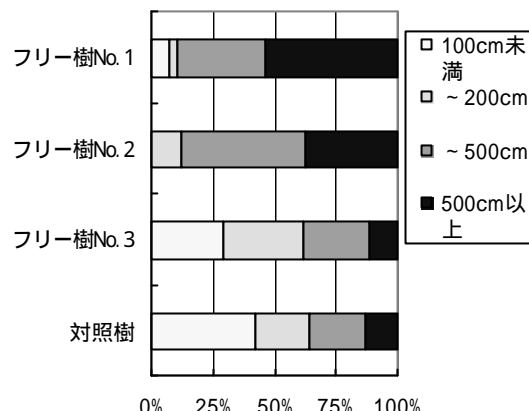
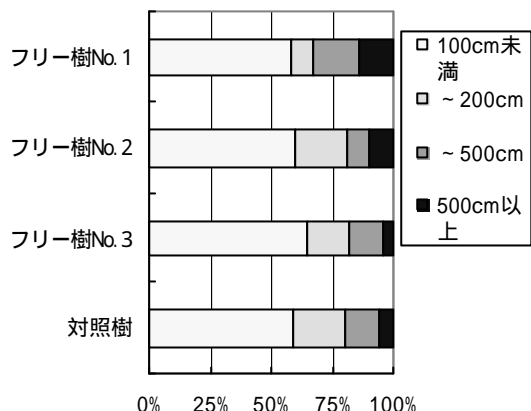


図1 全新梢の長さ別頻度(平成9年)

- 注) 1. 供試樹は5年生、簡易被覆栽培
 2. 芽傷処理及び摘心は実施していない
 3. 平均新梢長はNo.1樹は1.96m、No.2樹は1.55m、No.3樹は1.27m、対照樹は1.39mであった
 4. 対照樹はリーフロールウイルスに感染
 5. 施肥は12月にNとして5kgを施用した

図2 結果母枝先端新梢の長さ別頻度(平成9年)

- 注) 1. 供試樹は5年生、簡易被覆栽培
 2. 平均新梢長はNo.1樹5.13m、No.2樹4.21m、No.3樹2.17m 対照樹は2.14mであった
 3. 対照樹はリーフロールウイルスに感染
 4. 施肥は12月にNとして5kgを施用した

表1 結果量とウイルスフリー「巨峰」の果実品質(平成12年)

1果房当たり 新梢長	果粒重		果皮色		糖度		酸	
	8/10	8/17	8/10	8/17	8/10	8/17	8/10	8/17
	g		カラチャート		Brix		%	
200cm	14.2	14.0	8.5	9.3	19.1	20.2	0.47	0.43
150cm	14.1	14.9	8.0	9.1	18.4	19.9	0.47	0.40
100cm	14.1	14.7	7.4	8.1	18.0	19.4	0.51	0.42

- 注) 1. 供試樹は8年生。副梢は1または2枚を残して摘心した。
 2. 結果量の試験区は主枝単位に設定。
 3. 結果量は200cm区は約1t/10a、150cmは約1.5t/10a、100cmは約2t/10a程度となる。
 4. 施肥は11月にNとして8kgを施用した。

[その他]

研究課題名：ウイルスフリー「巨峰」の栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成13年度(平成4~13年)

研究担当者：白石美樹夫、藤島宏之、平川信之、粟村光男、井樋昭宏

発表論文等：平成13年園芸学会九州支部研究集録第9号